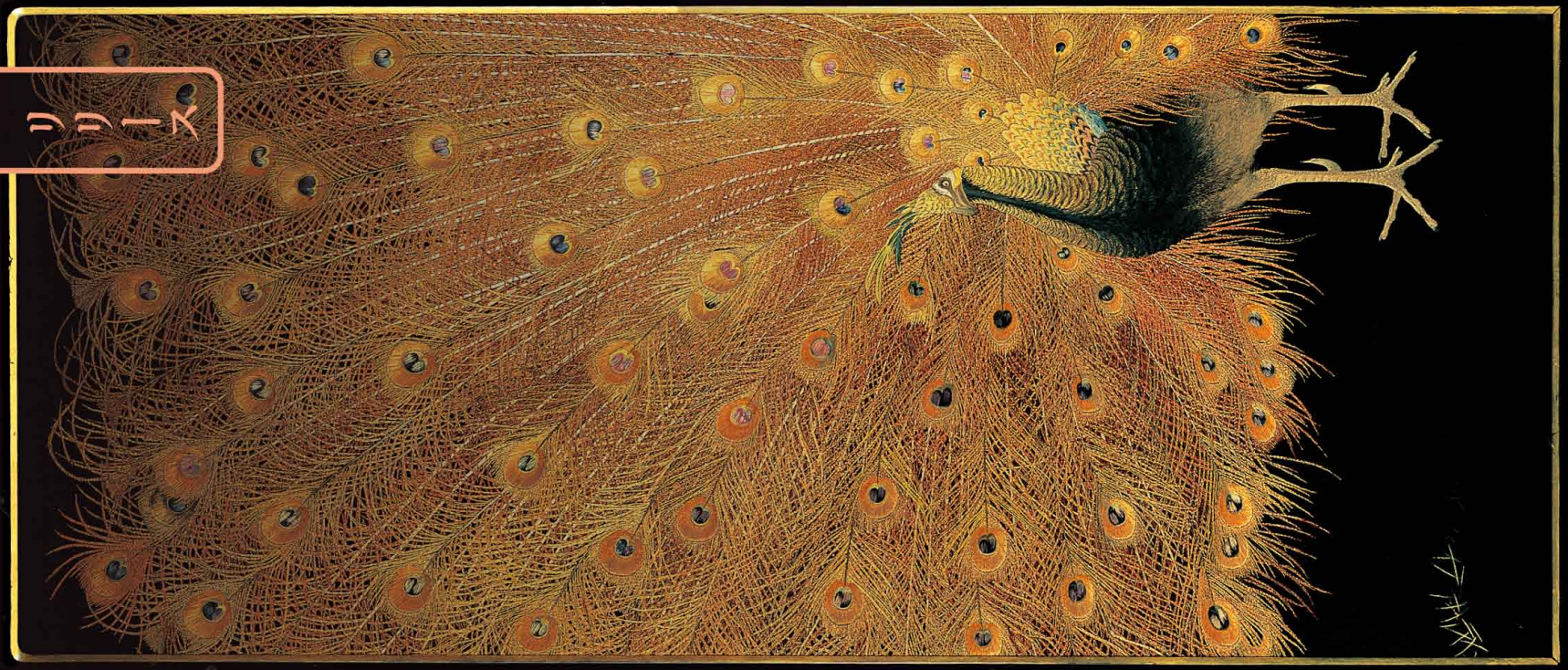
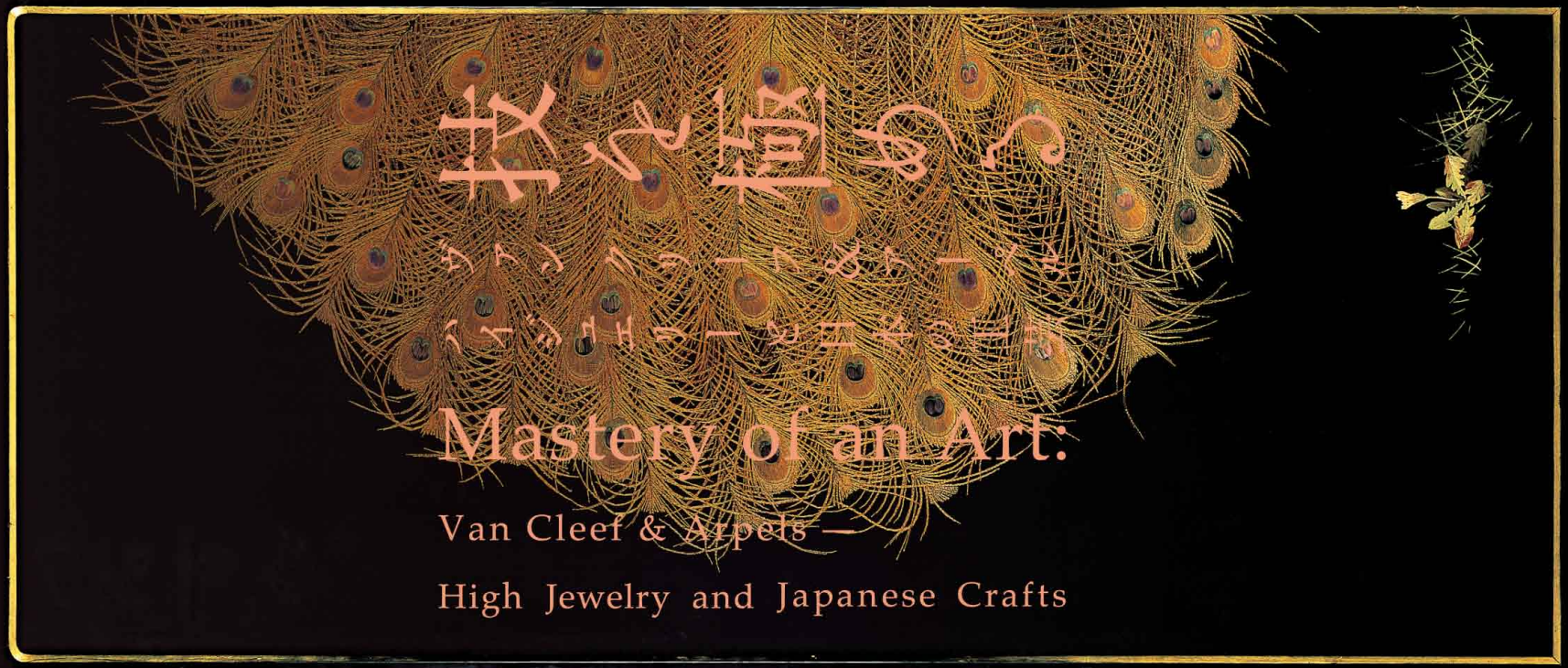




Mastery of an Art:

Van Cleef & Arpels —

High Jewelry and Japanese Crafts

このたび、京都国立近代美術館では、「ヴァン クリーフ&アーペル」のハイジュエリーと日本の工芸を対比し、日仏の熟練技術の粋を紹介する「技を極める――ヴァン クリーフ&アーペル ハイジュエリーと日本の工芸」を開催します。

ヴァン クリーフ&アーペルは、独自のスタイルと優れた技術で知られ、ハイジュエリー制作の分野で高く世界で評価されています。同社はハイジュエリーを中心とした展覧会を世界各国の美術館で開催しており、今年は京都での開催となります。

京都は、1200年以上昔から明治維新まで天皇が鎮座する都でした。それ故に、栄枯盛衰はありましたが、文化の中心であり雅な世界が繰り広げられ、衣食住に関連した最高級の品々が生み出されてきました。たとえば衣では、十二単や小袖、辻が花、能衣装など金襴を惜しげなく使った装束が作られています。これらの制作には現在の西陣のような織ものから染ものまで技術の粋が詰まった地域があり、熟練した職人の技と心意気があったからこそ様々な要求に応えることができました。このことは、フランスの首都パリで創業したヴァン クリーフ&アーペルにおいても同様です。熟練した職人が一子相伝のように技を伝える、これこそが国や時代を超えて共有できるもののひとつであると言っても過言ではありません。フランスを代表するハイジュエラーであるヴァン クリーフ&アーペルの「技」と長い歴史の中で育まれた日本工芸の「技」の対比や結びつきは新たな文脈を生み出すことと期待します。また、この展覧会が、フランスと日本、さらにパリと京都の文化交流と友好の証となることを祈念します。

❶《スピリット オブ ビューティ フェアリー クリップ》1941年 ❷《ヴァルナ ヨットのミニチュア》1907年頃 ❸《バンピーユ イヤリング》1923年 ❹《鳥かご》1935年 ❺《アールデコ ブローチ》1930年頃 ❻《フューシャ クリップ》1968年

❼

ヴァン クリーフ&アーペルの歴史

1906年のヴァン クリーフ&アーペル創立から現代に至るまでの1世紀にわたる歴史的展開を提示します。デザインや制作技術の変遷が見られる約80点の作品を展示します。

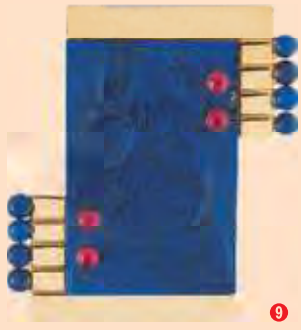
［ヴァン クリーフ&アーペル Van Cleef & Arpels］

ヴァン クリーフ&アーペルは、フランスを代表するハイジュエリーメゾンであり、その独自のスタイルと創造性、優れた技術で知られます。1895年、宝石カット職人の息子アルフレッド・ヴァン クリーフと、宝石商の娘 エステル・アーペルが結婚、1906年にパリ ヴァンドーム広場にて「ヴァン クリーフ&アーペル」を創業しました。1925年、パリ万国博覧会(アール・デコ展)に薔薇の花のブレスレットを出展して大賞を受賞、その名声を国際的に高めていきます。1930年代には、洗練されたイヴニングバッグ「ミノディエール」を発表、さらに、宝石を支える爪の部分を表から見せない特殊な技巧「ミステリーセッティング」を特許登録しました。このセッティング技法は現在も進化を続け、ヴァン クリーフ&アーペルを象徴する技術として継承されています。その後も、ジップネックレス、アルハンブラ ロングネックレスなど、メゾンの創造性を体現する作品が次々に生み出されてきました。1956年、モナコ大公とグレース・ケリー成婚の際にヴァン クリーフ&アーペルのジュエリーセットが贈られ、モナコ公国公式御用達となるほか、数多くのセレブリティを顧客に持ち、夢と幸福、詩情に満ちたジュエリーと時計は、世界中で支持を集めています。

ヴァン クリーフ&アーペルでは、1920年代〜1980年代にメゾンのアトリエで制作された作品を中心に、歴史や時代とともに変遷するスタイルを反映する貴重な作品をアーカイヴしています。本展を構成するジュエリーは、ほぼこのヴァン クリーフ&アーペルのコレクションから出品されています。

❼《二匹のトンボのクリップ》1926年 ❽《封筒型のヴァニティケース》1925年頃 ❾《アールデコ ブローチ》1930年
❿《バード クリップ》1924年 ⓫《フローティング リボン クリップ》1937年 ⓬《ダンスーズ エスパニョール クリップ》1941年

❽



❾

《結婚式の日のアルフレッド・ヴァン クリーフとエステル・アーペル》1895年

《パリ、ヴァンドーム広場22番地のヴァン クリーフ&アーペルのブティック》1906年
© Van Cleef & Arpels

⑩

⑪

⑫

⑬

2 技を極める

日本では、超絶技巧と呼ばれる作品があり、一般的に工芸と呼ばれます。しかし、これは欧米でいうところのアプライド・アーツではなく、絵画や彫刻と同列の価値をもった日本独特の重要な作品です。たとえば、先に述べた金襴を豊富に用いた装束や、漆に金で絵画的表現を施した蒔絵の作品、さらには陶芸や金属工芸などがあります。

ヴァンクリーフ&アーペルが作り出すハイジュエリーも、日本の工芸品と同じように珠玉のものであり、それを作り出す人々はまさに日本でいうところの重要無形文化財保持者（人間国宝）といえる人々です。日本においては近代以降、特に明治の終わり頃から個性を尊重した個人作家としての意識をもった工芸家が現れてくるのに対して、ヴァンクリーフ&アーペルの仕事は、工房による分業制で現代まで行われています。その点においても日本でかつて成されていたものづくりのあり方が今も息づいていることに驚かされます。

本展では、様々な素材を組み合わせ、技を極めた超絶技巧ともいえるハイジュエリー作品約100点と、日本の超絶技巧の七宝や陶芸、漆芸、金工などの工芸作品約50点を比べながら鑑賞していただきます。

⑭

⑮

⑬《葡萄の葉のクリップ》1951年　⑭《龍のクリップ》1969年　⑮《3羽の鳥のクリップ》1946年　⑯《バードクリップとペンダント》1971・1972年　⑰《インド風ネックレス》1971年　⑱《バルカロール チョーカー》1971年

16
17
18

①

［企画構成］

3 文化の融合と未来

本展は、「技を極める」というテーマで構成しています。フランスのハイジュエリーの秀逸な作品と、日本の工芸作家の作品を組み合わせて展示することによって、フランスと日本の文化交流と融合の一端が見られ、未来への新しい視点が生まれてくるのではないかと考えます。ヴァンクリーフ&アーペルのハイジュエリーのほか、現代日本の工芸作家としては、森口邦彦（重要無形文化財「友禅」保持者）、北村武資（重要無形文化財「羅」「経錦」保持者）、中川清司（重要無形文化財「木工芸」保持者）、服部峻昇（漆芸）、十二代三輪休雪（龍作）（陶芸）などの作品が展示され、特別出品としてハイジュエリーと工芸のコラボレーション作品も展示する予定です。

②

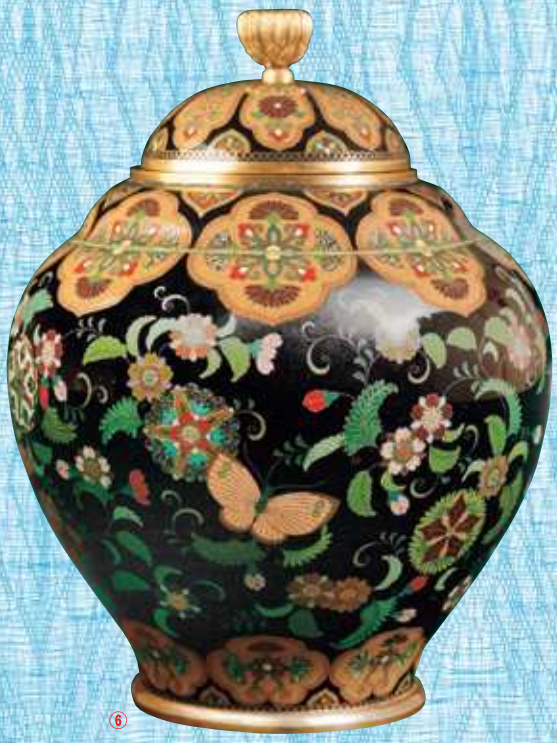
［日本の主な出品作家］（順不同）

七代 錦光山宗兵衛（陶芸）
四代 長谷川美山（陶芸）
並河靖之（七宝）
正阿弥勝義（金工）
安藤緑山（象牙彫刻）
山崎南海（彫刻）
十二代 西村總左衛門（刺繍）
四代 飯田新七（刺繍）
森口邦彦（友禅）
北村武資（羅、経錦）
中川清司（木工芸）
志村ふくみ（紬）
服部峻昇（漆芸）
十二代 三輪休雪（龍作）（陶芸）

③

④

⑤



⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

［会場デザイン］

藤本壮介（Sou Fujimoto）……1971年北海道生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、2000年藤本壮介建築設計事務所を設立。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞、2015年パリ・サクレー・エコール・ポリテクニーク・ラーニングセンター国際設計競技最優秀賞につぎ、2016年 Réinventer Paris 国際設計競技ポルトマイヨ・パーシング地区最優秀賞を受賞。主な作品に、ロンドンのサーペンタイン・ギャラリー・パビリオン2013（2013年）、House NA（2011年）、武蔵野美術大学図書館（2010年）、House N（2008年）等がある。

［開催概要］

技を極める―ヴァン クリーフ&アーペル

ハイジュエリーと日本の工芸

Mastery of an Art: Van Cleef & Arpels – High Jewelry and Japanese Crafts

会期：2017年4月29日（土・祝）～8月6日（日）

会場：京都国立近代美術館

開館時間：午前9時30分～午後5時、金曜日は午後8時まで（入館は閉館30分前まで）

休館日：月曜日、ただし6月13日（火）および7月18日（火）は休館、7月17日（月・祝）は開館

主催：京都国立近代美術館、日本経済新聞社、京都新聞

後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本

特別協力：ヴァン クリーフ&アーペル

観覧料（税込）	一般	大学生	高校生
当日	1500円	1100円	600円
前売／団体	1300円	900円	400円

＊団体は20名以上　＊中学生以下無料　＊本料金でコレクション展もご覧いただけます

＊心身に障害がある方とその付添者1名は無料（入館の際に証明できるものをご提示ください）

＊前売券は2月27日（月）から4月28日（金）まで販売

チケット取り扱い：セブン-イレブン、ローソン（Lコード：55866）、ファミリーマート、サークルKサンクス、イープラス、CNプレイガイド、チケットぴあ（Pコード：768-121）ほか

展覧会公式サイト http://highjewelry.exhn.jp/

お問い合わせ テレホンサービス（展覧会のご案内）075-761-9900

京都国立近代美術館 〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町

電話：075-761-4111 http://www.momak.go.jp/

広報お問い合わせ：

「技を極める―ヴァン クリーフ&アーペル ハイジュエリーと日本の工芸」広報事務局

（共同PR）担当：川島、三井

〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22（同和ビル）

電話：03-3575-9823 FAX：03-3574-0316

E-mail: vca.exhn-pr@kyodo-pr.co.jp

⑫

⑪

●表紙：十二代西村總左衛門《孔雀図》（染織）1900-1910年

①正阿弥勝義《柘榴に蝉飾器》（金工）明治時代

②安藤緑山《柿》（象牙彫刻）大正・昭和初期

③作者不詳《藤に孔雀図》（染織）1905年頃

④四代長谷川美山《京都名所図透彫飾壺》（陶芸）明治・大正時代

⑤正阿弥勝義《蓮葉に蛙皿》（金工）明治時代

⑥並河靖之《蝶に花丸唐草文飾壺》（七宝）明治時代

⑦北村武資《浅黄地透文羅裂地》（染織）2005年

⑧七代錦光山宗兵衛《花蝶図大鉢》（陶芸）明治・大正時代

⑨服部峻昇《玉虫香合 桐文》（漆芸）2014年

⑩森口邦彦《友禅着物 雪舞》（染織）2016年、個人蔵

⑪並河靖之《藤図花瓶》（七宝）明治時代

⑫正阿弥勝義《鯉鮟鱇対花瓶》（金工）明治時代

＊所蔵表記のないもの

❶-⑱、⑨：ヴァン クリーフ&アーペル コレクション

表紙、①-⑧、⑪、⑫：京都国立近代美術館蔵

＊写真クレジット

Patrick Gries © Van Cleef & Arpels: ❶-❽、❿-⑰

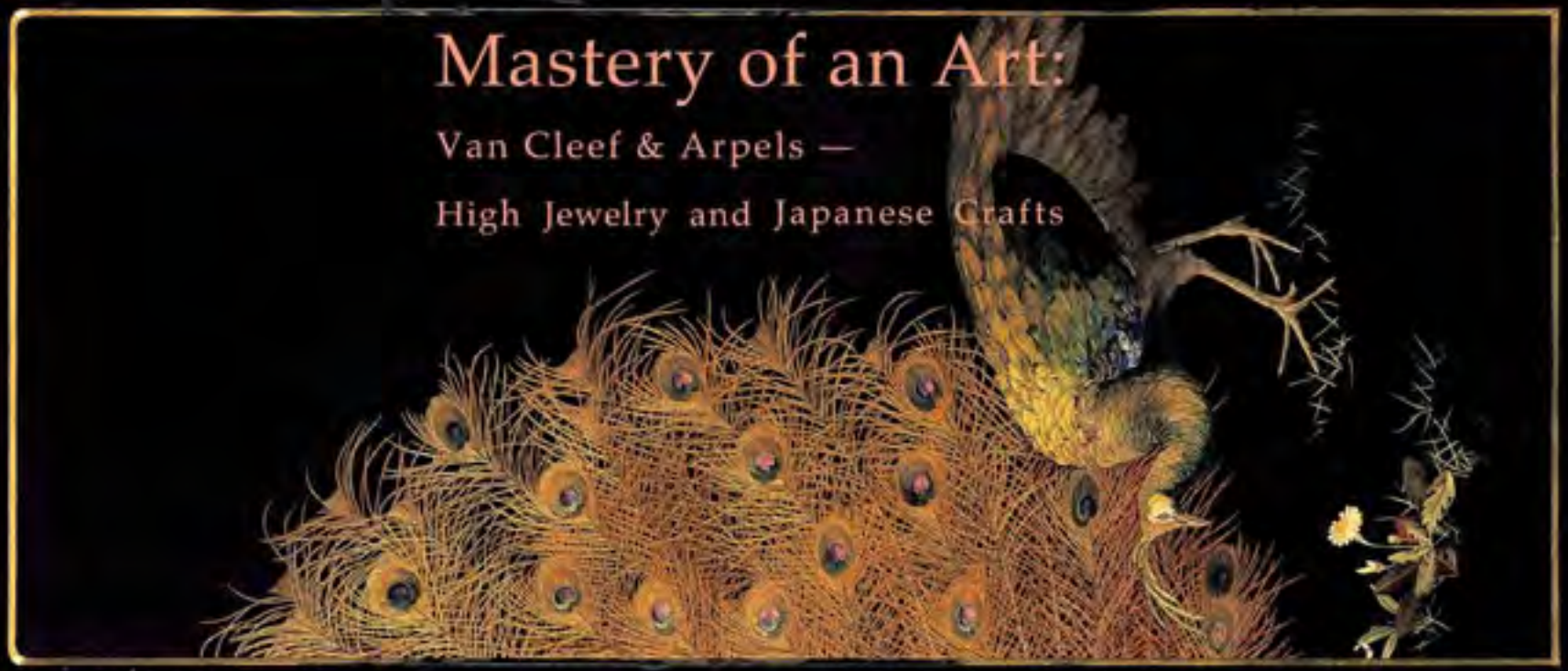
© Van Cleef & Arpels: ❾

Anthony Falcone © Van Cleef & Arpels: ⑱

木村羊一：表紙、②-④、⑧、⑪

中島光行：①、⑫　杉本雅実：⑤

江崎義一：⑥　四方邦熙：⑦、⑨、⑩

Mastery of an Art:

Van Cleef & Arpels — High Jewelry and Japanese Crafts